

【 避難路 】

- ・ 誰が見てもわかる避難場所へのアクセスを確保する。
- ・ 車での安全な避難ができることも検討が必要(別途渋滞問題もある)
- ・ 誘導方法の工夫は必要(要検討)

- ・ 誰が見てもわかる避難路とする 避難ビル誘導される。

ルートは、地元でなくても誰も(外部の人でも)がわかりやすいものとする
避難ビルに誘導するために、道路に着色するとよいのではないか。

- ・ 避難道に登れる箇所を増やす。
- ・ 道路整備と一体となった避難場所の整備。車での安全な避難 車利用の広い場所
- ・ 渋滞(逃げた人とそのまま車に乗ってた人)。
- ・ 東部地区は 10 分あれば逃げられる。
- ・ 中番庫から商店街への道路をつくる。(逃げる道としても利用)。
- ・ 大渡橋の交差点改良。283 号線と大渡橋交差点の問題解消(鉄道の分断)。

- ・ 津波の大きさがわからない事への対策を。

命を守る時間づくり、施設をつくる。

どこに逃げるという情報と場所をしっかりと示すことが大切。

【 防災施設 】

- ・ 防潮堤による多重防御に加え、ビルなども防潮施設に
- ・ 防潮堤は高さだけでなく強度の確保も必要
- ・ 防災対策の組み合わせが必要
- ・ 守るだけではなく、流れる、こわれるも考えに入れる。
- ・ 高くしただけでは不安が残る。
- ・ 高くするだけではだめで、避難通路の見直しなど組み合わせを考えて。
- ・ 防潮堤は高さ + 強度が重要。壊れなければ波を防げた どのくらいの強度が必要なのか？
- ・ 防潮堤高くすると、陸こうなど重くて閉められない マンパワーでない方法、科学、技術。
- ・ 防潮堤の説明があまりない(高さなど)。
- ・ 昭和 8 年水量が上がって水が入ってきた 今回、勢いがちがった。
- ・ 多重防御はいい 街の中にも防浪施設あっていい。
- ・ オカムラ工場跡 これも防浪施設に。
- ・ ビルが防潮堤のようになる(シャッター閉める。ex. 荒川)。
- ・ まちの守りかた。防潮堤のそばに地震・津波に強い建物。
- ・ 湾口防波堤の検証(安心感を持ってしまった)、効果はあった。
- ・ 水路(しおだち川) 満潮時は逆流し道路にも入ってくる 直さないと大変。

【 暮らしの安全 】

- ・ 子供が安心して通れる道路、遊ぶ場所が必要
- ・ 街灯や信号など道の安全が必要。
- ・ 子どもが通れる道路。遊ぶ場所なし。
- ・ 東前・浜町の子ども、スクールバスで通っている現状。
- ・ 出歩けない、出歩かなくなる。
- ・ 道路の灯り、街灯。信号。

釜石のイメージ

- ・ 特別なイメージがあるが賑わいがなく寂しい状況である
 - ・ 昔は、賑わっていたが、商業地、メインとなる施設がない
 - ・ 人口は減少し、高齢者が多い
- ・ 市街地イメージ（ちょっと特別）
 - ・ 釜石八景
 - ・ 人口の減少率速い。
 - ・ 昔は賑わっていた、バスに乗って「まち」に行く。
 - ・ 映画館なくなった。
 - ・ 新日鐵の高炉閉鎖以降縮小した。
 - ・ 橋上市場 サンフィッシュ。
 - ・ シャッター通りが多い。西部地区は若い人が多い。東部地区は高齢者が多い。
 - ・ 商業地、メインの施設がない。
 - ・ デパートがなくなった。

商店街・まちづくり

【 商店街 】

- ・ 商店街を、地域を越えてコンパクトに集約する
 - ・ 魚市場、復興住宅と連携し、賑わいを取り戻す
 - ・ 西部で商売は難しく、元の場所に戻りたいと考える人は6割程度
 - ・ 市民も復興のアイデアを出したい、スピードが必要
 - ・ 世代間での考え方も異なる
- ・ 商店街、今の街並みにはにぎわいが無かった 集合商店の形成が必要では
 - ・ 1km ある商店街をコンパクトに。
 - ・ 浜町の人も来てもらって集約。高層の復興住宅を集中させる。
 - ・ 人工地盤の商店街、大渡～大町に集約。
 - ・ 市民にも責任を持たせて下さい 西部とか広く考えるべき。企画を含めて。

- ・商業地残していく、実は良い。
- ・シャッターも津波に対応できるようにする(商店街)。
- ・集約、整理もあるだろうが手法(進め方)が見えない。
- ・お客様の安全が必要。
- ・楽しい建物をつくる。土木よりもはやい。
- ・世代によっても考え方が違う。自力で再建だと歯抜けになる 補助制度ほしい。
- ・60歳すぎ 借金してまで商売したくない。
- ・橋からむこうは普通。海辺の復興難しい。
- ・復興住宅を東部につくれば人が来る 人の流れ。
- ・西部で商売はムリ 浜町あたりが古くからの中心。
- ・東部で再建したい。
- ・兄越の人は? みんなで動こう。6割の人戻りたい。
- ・この前のアンケート 65%「元のまちに戻りたい」。
- ・文化圏がちょっと違う。「魚と鉄」。

【まちづくり】

- ・特徴を活かした独自性のあるまちづくりが必要(ラグビー、魚、鉄)
- ・歩いて楽しむことができる機、能の集約化
- ・魚市場との連携を図る(イベントや空間的な連携)
- ・高台からの眺めは釜石らしさの象徴
- ・商店 港など。商店街と魚市場分かれている?
- ・歩いて楽しむ。車と人を分離させる。
- ・戦後の闇市のような活気。
- ・街の色を決める。
- ・ラグビータウン。
- ・×買うだけの場所、 行きたくなる場所。
- ・ブームで終わらせない! 持続するまち。
- ・何かを特化したまちにしたら? 独自性。

- ・まちのつくり方がどこもマンネリしている。
- ・まちの特徴 / さかなのまち
- ・魚市場、市場空間、イベントもできる。連携。
- ・共通して集客拠点と魚市場の関連性、他地区の市民にも情報が必要なので。
- ・高台、公園から見た時の景観に釜石らしさ。
- ・半分残って半分やられた。 復興 + 復旧。

【観光 PR・活性化】

- ・ 若者が担い手となる・集まる活気のある施設、商店街が必要
- ・ 公共施設の充実等拠点として重要な場所

- ・ 魚市場の活性、若い担い手、宣伝 PR。
- ・ 東部地区、市の“顔”として位置づけるための目玉(公共施設)の再配置を打ち出すべき、必要性。
- ・ サイクリングコース。
- ・ 若者の集まる商業施設、商店街。
- ・ 若い人は遊ぶ場所を求めている。
- ・ 震災を機に釜石に帰ってきた。
- ・ 交通量が多くなった。
- ・ 仕事がない。遊ぶ場所が少ない。これがあれば戻ってくる。

水産業(市場・港)

- ・ 市場は再開したが、まだ十分に機能していない。流通の活発化が重要

- ・ 市場は再開。しかし、まだ機能していない。
- ・ 漁はできるの？魚売れるの？お店は？市場ができると流通が生まれる。
- ・ 市場ができると流通が生まれる。
- ・ 漁業が活発になるためには組織の活性化が必要。

雇用

- ・ 働く機会・場所が必要 まちの収入源

- ・ 働く場所。働く機会。
- ・ まちの収入源。

居住地

【 居住場所 】

- ・ 浸水区域の居住地はどうなるのか。代替地は用意されるのか。
- ・ 元の場所と新しい安全な居住地、皆が納得する方法を。
- ・ 住んでいいところと悪いところがわからない(明確化してほしい)
 - ・ 共通して住居地域としての進め方(取り組み方)。
 - ・ 高台住居へのアクセス。
 - ・ 流された場所(居住区)はどうなるのか？
 - ・ 代替地用意してくれるのか？
 - ・ 家建てていいのか。もとの土地は？
 - ・ 安全な高台にあげる、あり得るか？
 - ・ 住居・場所。元の所に住みたい人最低 27%いる(内閣府の調査)。
 - ・ 新しく造成する所 住みたいと思えるかは見てみないと分からない(街からはずれている所だと)。
 - ・ 元の場所に住みたい人、新しい所でも安全なら良いという人、みんなが納得する方法は？
 - ・ 自分で動けない人は？ エリア 1 に住む？

【 復興公営住宅 】

- ・ 防災機能を持ち、避難経路を確保できる復興住宅があるとよい。
 - ・ 複合化した多目的なものとなるとよい。(商業施設との連携)
- ・ 復興住宅に防災ビルの機能を兼ねさせて東部地区に 山の道とつなげる。
 - ・ 商店街に人が戻るようにする。
 - ・ 山と駐車場をくっつけて車でも避難しやすく。
 - ・ 1～2F 駐車場。3～4F 商店オフィス。5F～住居。
 - ・ 目の前に避難ビル そこから山へ逃げられる。
 - ・ 免震ビル、複合ビル。
 - ・ 防波堤よりも建物にお金をかける。

【 盛土 】

- ・ 盛土には、多くの不安がある。(時間、技術的、場所、お金)
- ・ 盛土の位置、市の方針は？土地はどうなるの？
 - ・ まちはずれの盛土でもそこを選ぶかは人による。
 - ・ 盛土に金をかけるなら建物にかける？！
 - ・ 盛土は上が落ち着くまで時間かかる。
 - ・ 全体盛土はちょっと心配。
 - ・ 現実に盛土は難しい。 防波堤、人工地盤。
 - ・ 盛土について、第1案：盛土の土の出所。その他にも近隣に必要なところもある
と思うので、ボーリング調査などの実施。

【 景観・緑地 】

- ・ 釜石名物・名所は維持すべき
- ・ 高い防潮堤で景観が失われることは心配。
- ・ 防潮堤を利用した景観の視点場づくり
- ・ 赤の堤防(オカムラ)のあたりは緑地に。
- ・ ランドスケープ景観に配慮して欲しい。
- ・ 飲んべえ横丁はどうするのか？ ずらす。釜石名物・名所維持すべき。
- ・ 防潮堤より 景観、海が見たい。
- ・ 防潮堤で全て困うのは？ みんな内陸に行ってしまう。
- ・ 公園、緑化区域を工夫して付加価値を考えた(回遊性等)。

暮らしを創る話し合い(みんなの家)

【 コミュニティの場 】

- ・ 普段からコミュニケーションを育てる
- ・ 簡単に決められない大事なことをじっくりと話し合う必要がある
- ・ 町内毎のコミュニケーションの強化(防災訓練の強化)。高齢者、子供、身障者の安全確保(具体的に示す)。自力で動けない人をどうするか？
- ・ 危機、災をチャンスに。
- ・ 商店継続するかどうか話し合う。
- ・ 住宅地と商業地ははっきり分ける(今がチャンス)。
- ・ 全てに中心市街地の防御と復旧、復興に寄与すべき安全対策が欲しい。将来の市政発展のために。
- ・ 命を守るを最優先。

【 話し合い 】

- ・ 住民間で話し合う、具体的な提案を行うなど会議の方法を変えていく必要
- ・ 話しあいと組織の信頼関係が重要
- ・ 提案・意見に対する返答がなく、前進感がない
 - ・ まちづくりに参加できるのか？
 - ・ 市の職員が入って話し合いしたい。話を市の職員に聞いてもらいたい。
 - ・ 行政・計画に携わる者が出向いて話を聞く。
 - ・ 被災の程度によってグループで話し合うことも必要。
 - ・ 具体的な提案をまとめて提出する。(具体的な提案を出しているところがある)
 - ・ 行政施設の再編 具体的に何か？
 - ・ 魚河岸周辺の活性化 議論がない。
 - ・ 大渡橋の架替 返答がない。
 - ・ 提案・意見に対する答えがない。 前進感がない。
 - ・ 何度やっても変わらない。
 - ・ 参加者が少ない。 さめている。
 - ・ 肝心な所(地盤沈下したり、水入った所)は市民と話して下さい。
 - ・ 現状復旧はむずかしい。

【 スピードある復旧 】

- ・ 生活と仕事、スピード感ある復旧を目指さなければならぬ
 - ・ 生活・仕事をすぐ復旧。
 - ・ 現状使える物は利用しながらスピード感ある復旧をめざす。
 - ・ 商売している人は待てないのでは。